

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域に密着した「普通科」校ならではの特色を生かし、「知」「徳」「体」の育成を図り、生徒が「藤高（ふじたか）」生のプライドを持ち行動する学校

- 1 「普通科」校ならではの特色を生かした確かな学力の育成と、生徒一人ひとりの希望を叶える進路を実現する
- 2 学校行事や部活動等を通して、生徒の主体性、創造性を育成するとともに公共心を養う
- 3 「地域連携」を核に、地域に根ざした「地域とともにある学校」を進めるとともに、支援学校との交流、海外の学校や外部機関との連携を進める
- 4 生徒が安全・安心な環境の中で学校生活を送り、生徒・教職員の健康管理体制を充実させる

2 中期的目標

1 「普通科」校ならではの特色を生かした確かな学力の育成と希望を叶える進路の実現

(1) 希望の進路の実現に向け教員の指導力を向上するとともに、生徒が主体的に授業に取り組む教育活動を推進する

ア 「普通科」における教科横断の授業研究を進めるとともに観点別学習の視点からの授業改善を行い、生徒の学力の向上を図る

イ 授業における ICT の効果的な活用を進め、視覚化、情報活用による教育効果をさらに高めオンライン学習を併用する

※ 生徒向け学校教育自己診断における授業満足度 (R4:83.4%、R5:88.0%、R6:89.0%)を令和9年度までに90%以上にする

(2) 3年間を通じて進路指導計画・課外講習の充実を図り、希望の進路を実現させる

ア 1年次から進路に合わせた授業や進学講習を実施し、早期の目標設定につなげる工夫をする

イ 進路決定まで、学年進行に合わせて多様な希望に応える個別の指導を幅広く展開する

ウ 大学等との連携や早期からの講習、自習室活用の拡充、粘り強い指導により難関大学への進学実績を向上させる

※ 国公立・難関私立大学の合格者数 (R4:28人、R5:22人、R6:23人)を令和9年度までに30人以上、それに準じる有名私立大学合格者数 (R4:94人、R5:84人、R6:91人)を令和9年度までに100人以上にする

2 学校行事や部活動を通して生徒の主体性、創造性を育成するとともに公共心を養う

(1) 「学校行事」、「生徒会活動」、「部活動」を通して生徒が主体的に取り組む態度、自ら企画・運営する力を育む

ア 体育的行事において生徒会部を中心に組織の企画・運営の力を育むとともに、リーダーとなる生徒を養成する

イ 文化的行事において生徒の「企画する力」、「協働する態度」、「責任感」を育む

ウ 「部活動」の活性化によって学校生活をより充実したものにし、その活動を通して公共心を育む

エ 「全校一斉退庁日」、「ノークラブデー」を完全実施するとともに、年間を通して生徒・教職員の負担軽減を図る

※ 生徒向け学校教育自己診断における「学校行事」満足度 (R4:91.2%、R5:95.5%、R6:96.8%)を令和9年度までに98%以上、「部活動」満足度 (R4:87.4%、R5:88.6%、R6:94.2%)を令和9年度までに95%以上にする

3 「地域連携」を核に、地域に根ざした「地域とともにある学校」を進めるとともに、支援学校との交流、海外の学校や外部機関との連携を推進する

(1) 支援学校との交流を促進し、インクルーシブ教育システムについて理解を深めるとともに「人権教育」につなげていく

ア 藤井寺支援学校との交流活動を充実させ、生徒及び教職員がインクルーシブ教育システムについて理解し活動に生かす

(2) 「地域連携」を核に生徒が主体的に取り組む交流活動を拡充することによって、「地域とともにある、進学したい学校 No. 1」をより確かなものとする

ア 地域活動 (新春セミナー・藤彩展・市民講座・クリーンアップキャンペーン・地域の催しへの参加、地元小学校や他の教育機関との連携活動) の拡充を図り、地域と密着した、「チーム藤高 (ふじたか)」を発展させる

イ PTA、同窓会の協力の下海外研修の継続・充実を図り、藤井寺市海外交流委員会と連携した短期留学生の受け入れ交流も充実させる

※ 生徒向け学校教育自己診断における「特色ある取り組み」に関する肯定度 (R4:81.0%、R5:87.3%、R6:89.4%)を令和9年度までに90%以上、「交流活動」に関する肯定度 (R4:81.7%、R5:91.0%、R6:93.2%)を令和9年度までに95%以上にする

(3) 「藤高 (ふじたか)」の良さを知り、実感できる広報活動を展開する

ア 学校ホームページ、藤高メルマガのさらなる充実を図り、情報発信を強化する

イ 「体験入学」、「学校説明会」について生徒が主体となった運営を継続し、「藤高 (ふじたか)」の良さをわかりやすく伝えていく

※ 保護者向け学校教育自己診断における「教育情報伝達」に関する満足度 (R4:89.7%、R5:87.1%、R6:89.4%)を令和9年度までに90.5%以上、「HP・メール発信」に関する満足度 (R4:84.8%、R5:85.8%、R6:84.8%)を令和9年度までに86%以上にする

4 生徒が安全・安心な環境の中で学校生活を送るとともに、生徒・教職員の健康管理を推進する体制の充実

(1) 生徒の規範意識の向上と保護者や関係機関との連携による教育相談体制の充実を図る

ア 「互いに違いを認め合い、ともに学びともに生きる」ことを育むために一人ひとりの生徒支援の充実を図る

イ 多数の生徒が利用している自転車のマナー向上と交通安全指導の徹底を図る

※ 生徒向け学校教育自己診断における「教育相談体制」に関する満足度 (R4:69.0%、R5:75.5%、R6:78.2%)を令和9年度までに80%以上、保護者向け学校教育自己診断における「教育相談体制」に関する満足度 (R4:79.7%、R5:77.7%、R6:84.0%)を令和9年度までに85%以上にする

(2) 「入学してよかったと言える学校」を将来に渡って継続していくために、本校の将来展望を検討する

ア 「運営委員会」「総合学習推進委員会」「オンライン学習委員会」を中心に将来に向けた特色ある取組みを具体的に検討していく

イ 情報のデジタル化にとまなう個人情報漏洩の危険性に対して、情報保護のための具体的な取組みを検討する

※ 生徒向け学校教育自己診断における「学校に行くのは楽しい」の肯定度 (R4:78.8%、R5:84.6%、R6:85.2%)を令和9年度までに87%以上、「学校において個人情報守られている」の肯定度 (R4:89.7%、R5:92.1%、R6:95.1%)を令和9年度までに96.5%以上にする

(3) 大規模災害の発生に対応できる防災体制の強化と防災教育の充実を図る

ア 大規模災害の発生に対応できる防災体制を強化する

(4) 学校保健委員会、安全衛生委員会を活性化することによって生徒・教職員の健康管理体制を充実させる

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和7年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「授業・指導方法の工夫」についての質問に対し、教員は肯定的回答率 97.4%と 2.6 ポイント、生徒は 90.1%と 4.9%といずれも減少した。また、生徒の「授業は分かりやすい」についても 77.8%と 5.7%減少している。さらに授業改善を進めて魅力ある授業をめざすために、1人1台端末の活用を推進しつつ、授業実践につなげていくことが必要である。 生徒の「先生は生徒の意見をよく聞く、きいてわからない点も質問できる」に関する質問に対し、肯定的回答率が 83.0%と 0.6 ポイント減少しているが、日常から生徒の話をよく聞いている結果である。今後も引き続き、生徒とのやり取りを大切にしていきたい。 <p>【学校生活等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校に行くのは楽しい」という質問に対し、生徒の肯定的回答率は 87.2%と、昨年から 2.0%増であった。保護者の「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」の肯定率は 87.3%と 0.2%増で、生徒が楽しんで学校生活を送ってくれている。今後も引き続き行って楽しい学校づくりを推進していきたい。 「部活動は盛んである」という質問に対し、生徒からの肯定的回答率は 94.0%と微減であった。また、保護者は 87.5%と 3.8%の減少であった。令和6年度に比べると部活動の加入率は 76%と上昇している。教員定数の減少や働き方改革の推進により環境は厳しいが、今後も工夫をこらしつつ部活動の活性化を図っていきたい。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校生活について先生の指導には納得できる」という質問に対し、生徒の肯定率は 77.0%で 0.4%減少した。また、保護者の「学校の生徒指導方針には共感できる」という質問に対し、肯定的回答率 83.3%と昨年度より 0.7%上昇した。本校の生徒指導の方針は一定の理解を得られていると思われる。今後も現状と時代の流れを検証しながら指導のあり方を検討する必要がある。 <p>【学校運営等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校運営で教職員に教職員の意見が反映されている」という質問に対する教職員の肯定的回答率は令和6年度 42.9%から 36.6%上昇し 79.5%となった。また、「各種会議が教職員間の意思疎通や意見交換の場として機能している」という質問に対する教職員の肯定的回答率は令和6年度 57.2%から 27.4%上昇し 84.6%となった。同僚性や協働性が高まり、学習指導の工夫や特別活動での活性化につながるものと考えている。 「校長は自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている」という質問に対する教職員の肯定的回答率は 97.4%と 33.1 ポイント上昇した。日ごろから教職員とコミュニケーションを取りながら進めた結果である。一定の信頼関係が築かれていると思うので、教職員の意見を聞き、協力を求めながら、学校経営を推進したい。 <p>【全体を通して】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在、「働き方改革」も喫緊の課題である。現在の業務をどのように精選していくのかを検討していく必要がある。生徒会活動や部活動なども見直しが迫られている。限られたなかで「選択と集中」など効率よく取り組む具体例等の調査や校内での検討、そして実践に取り組んでいき、生徒たちが楽しく学校生活が過ごせ、学習に取り組んでいける体制を構築したい。 	<p>第1回【令和7年6月27日（金）】</p> <p>○令和6年度学校評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT活用について、どれくらいの割合の教諭がICTを活用しているか また、ICTの活用により似たような展開の授業にならないか →多くの教諭がICTを活用している。また、工夫しながら授業をしている 取り組みたい項目 全校一斉定時退庁日における教職員の順守率の向上、一人当たりの平均時間外在校時間の減少。 ○令和7年度学校経営計画について <ul style="list-style-type: none"> 生徒が授業などの教育活動や学校行事、部活動、生徒会活動を主体的に取り組むよう推進する 地域に根ざした学校を作っていく 課題を抱えた生徒に対して、教育相談体制の充実を図る 子どもの数が減る中で藤高に行きたい、入学してよかったと子どもたちに思ってもらえるように取り組む ○令和6年度進路状況及び令和7年度進路年間行事計画 <ul style="list-style-type: none"> 夏季休暇中の進学講習の参加者はどれくらいか →まだ確定していないが、各講習、例年 10～20 名程度、多いものであれば 40 名程度の参加がある 子どもの数の減少により、生徒の中での大学受験のハードルが下がっている傾向は感じられるか →藤高の生徒からは感じられない ○広報活動報告 <ul style="list-style-type: none"> 藤高のホームページに卒業生の進路やコメントが掲載されているのがとてもよい 藤高生がにこやかに挨拶を返してくれるので、そういった姿をより発信してほしい” <p>第2回【令和7年12月3日（水）】</p> <p>○令和7年度外部説明会・広報等</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年の進路説明会も藤高生が参加しており、大変好評だった。学校での活動がよくわかるうえに、生徒と教員の距離が近いこと、生徒が主体となって学校運営が行われていることがよく伝わってきて、来年からなくなることが残念だが、また何らかの形で行ってほしい。 来年のクラス数の予定はどうか。 →今年度と変わりなく、6クラス、240名。 ○地域連携 <ul style="list-style-type: none"> 小学生たちが「今日はお兄ちゃんたち来ないの?」と言ったり、「藤高生に教えてもらって、勉強内容がよくわかった」と言ったりするなど高い評価を受けている。 ○安全 <ul style="list-style-type: none"> 来年から藤高周りの環境が変化することもあり、自転車通学の安全に対する取り組みは何かあるか。 →羽曳野警察・教育庁と連携してセーフティーバイシクルという活動を行っている。生徒会で啓発動画の作成や来年3月には羽曳野警察署の方に講演いただく予定。 <p>第3回【令和8年2月4日（水）】</p> <p>○令和8年度 学校経営計画及び学校評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> めざす学校像の「普通科高」を「公立校」へ変更したのはとても良い。 <p>○令和7年度 進路指導部について</p> <ul style="list-style-type: none"> 国立・有名私大進学率の上昇には、具体的にどういったことが影響したのか。 →1年生から講習、特に古文の講習を継続的にしていたこと、大学受験の意識づけを1年生の頃から日常的に行っていたこと、そして保護者の方のサポートがあったことが影響したと考える。 就職希望者が少ないが、求人票は多く来るのか。 →求人票はたくさん来ている。 <p>○令和7年度 生活指導部について</p> <ul style="list-style-type: none"> 不登校生徒の数は増加しているか。 →例年より少ない。オンライン授業を取り入れていることも要因の一つと考えられる。 イヤホンをつけて自転車を運転している生徒はあいさつなどの反応がないことが多い、電動自転車との出会い頭衝突のヒヤリが多い。 →来年度から自転車に対する取り締まりが厳しくなる。生徒にはそのことも踏まえ、指導していくつもりである。 小学校の児童会行事に藤高生も参加してもらっているが、小学生たちが藤高生の歌やダンスなどをとても楽しんで見ている。 地域のイベントであるさくら祭りに藤高の吹奏楽部も来てもらっているが、他のクラブも地域のイベントに参加しているのか →ダンス部が近隣の行事に参加している他、藤井寺イオンのクリスマスコンサートで吹奏楽部が演奏した

府立藤井寺高等学校

○令和7年度 保健部総括について
 ・スクールカウンセラーは生徒との対面といった直接的なアプローチだけでなく、教室巡回・担任との面談による傾向把握や予防、家庭支援といった点もしてくれるのか。
 →相談希望が多いため、スクールカウンセラーに教室巡回などをしてもらうのは難しいが、担任への助言や悩み相談を行っていただいている

○令和7年度総合的な探究の時間について
 ・大阪大谷大学の学生との連携はあるのか。
 →将来的には大阪大谷大学のプログラムに参加し、単位を認定してもらうなど検討している。

【その他ご意見】
 ・3年生の退学率が大変少なく、藤高教員の取り組みが反映されていると感じた。
 ・1年生からの取り組みが生徒の進路につながるため、今後も取り組みを行い生徒の可能性を広げてほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1 「普通科」 校ならではの特色を生かした確かな学力の育成と、 希望を叶える進路の実現	(1) 進路希望の実現に向けた教員の指導力の向上と生徒が主体的に授業に取り組むための工夫 ア 「主体的に学ぶ力」の向上に向けた観点別評価視点からの授業改善促進	(1) ア 「主体的に学ぶ力」の育成および事前学習となる「予習・復習」のために、学習支援クラウドサービスとグループウェア活用の拡大と充実を図るとともに、観点別学習評価の視点から授業改善に取り組み、教務部・オンライン委員会による効果検証を実施する。また、授業アンケート結果を活用することによって生徒理解を促進し、生徒が質問をしやすくなる雰囲気を作りだすなど、更なる授業改善をすすめる	(1) ア ・生徒向け学校教育自己診断における授業満足度[89.0%]を89.3%以上にする ・授業アンケートの肯定的評価(2回の平均)[89.3%]を89.6%以上にする ・教員向け学校教育自己診断における「授業改善」[100%]を維持する	(1) ア ・生徒向け学校教育自己診断における授業満足度は85.9%であった。さらに魅力ある授業をめざして引き続き授業改善を促していきたい。(△) ・授業アンケートの肯定的評価は90.0%であった。今後もさらに授業改善を進めたい。(○) ・教員向け学校教育自己診断における「授業改善」は97.4%であった。少し下がったが高評価で全員が授業改善に取り組んでいる。(○)
	イ ICT活用とオンライン授業による効果的教科指導の構築	イ プロジェクタやPC・タブレットを効果的に活用し、オンラインを併用した授業を展開することで、学力向上につなげる	イ 生徒向け学校教育自己診断における「教材やコンピュータ、プロジェクタなどで工夫された授業がある」[95.0%]において95.5%以上にする	イ・生徒向け学校教育自己診断における「教材やコンピュータ、プロジェクタなどで工夫された授業がある」は90.1%である。今後もICT機器の利活用を促していく。(△)
	(2) 3年間を見通した進路指導計画・課外講習の充実 ア 1年次からの少人数授業・進学講習の充実	(2) ア 「総合的な探究の時間」等を通じた1年次からの進路意識の定着とICT機器の活用、少人数授業や進学講習、大学との連携による進学に向けた講習の充実を図ることで、学習意欲を向上させるとともに、進路実現に向けた確かな手ごたえを感じさせることによって自信をもたせる	(2) ア 生徒向け学校教育自己診断における「少人数の授業や、関心のある選択授業がある」[86.0%]を86.5%以上にする	(2) ア・生徒向け学校教育自己診断における「少人数の授業や、関心のある選択授業がある」は84.8%であった。生徒の関心のある選択授業は一定ある。今後も興味関心を引き立たせる授業をめざしたい。(○)
	イ 多様な進路への対応	イ 多様な進路に対応するため、情報収集、伝達を充実し、幅広い個別の指導を展開する	イ 生徒向け学校教育自己診断における「進路や職業について適切な指導を受けられる」[93.8%]において94.0%以上にする	イ・生徒向け学校教育自己診断における「進路や職業について適切な指導を受けられる」は93.3%であった。ほぼ変化はないが、日ごろから教員が生徒に進路への意識付けを念頭に置いた指導が必要である。(○)
	ウ 大学との連携、自習室活用の拡充、粘り強い進路指導による進学実績向上	ウ 日々の補習と集中講習「夢へのトライアル」、自習室の活用を促進し、高い目標を設定した粘り強い進路指導をする	ウ 早期からの講習や自習室の活用、オンライン課題提供を促進することで、国公立・難関私立大学の合格者数[23人]を25人以上、それに準じる有名私立大学合格者数[91人]を95人以上にする	ウ・国公立・難関私立大学の合格者数は42人、それに準じる有名私立大学合格者数は130人であった。(◎)

府立藤井寺高等学校

<p>2 学校行事や部活動を通して生徒の主体性、創造性を育成するとともに公共心を養う</p>	<p>(1) 「学校行事」、「生徒会活動」、「部活動」を通して、生徒が主体的に取り組む態度、自ら企画・運営する力を育成</p> <p>ア 体育的行事における生徒会を中心とした生徒の企画・運営能力の育成と生徒リーダーの養成</p> <p>イ 文化的行事における生徒の「企画力」、「協働的態度」、「責任感」の育成</p> <p>ウ 「部活動」の活性化と、公共心の育成</p> <p>エ 「全校一斉定時退庁日」、「ノークラブデー」「学校休業日」の完全実施を図るための部活動の効率化</p>	<p>(1)</p> <p>ア 体育的行事において、生徒会部と3学年団の連携によって生徒のリーダー集団を育成するとともに、そのリーダー集団が企画から1、2年を巻き込んで組織運営できるよう指導する 生徒会を前面に出した活動を進める</p> <p>イ 文化的行事において、生徒会としての活動をアピールしながらクラス単位での企画・運営に取り組みせ、クラスの協力体制や責任感の大切さを理解させる</p> <p>ウ 生徒会、学年団中心に、新入生に向けた入部の促進を図り、加入率の向上を図るとともに、各活動を通して、ルールやマナーを順守する態度を育成していく</p> <p>エ 「全校一斉定時退庁日」、「ノークラブデー」の完全実施に向けた部活動の効率化と「学校休業日」の周知徹底を図る</p>	<p>(1)</p> <p>アとイ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断における「フェス体・フェス文等の行事は楽しい」[96.8%]を97.0%にする 生徒向け学校教育自己診断における「生徒会活動は活発である」[88.9%]を89.5%以上にする <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 新入生の部活動加入率[73.8%]を74.5%以上にする 生徒向け学校教育自己診断における「学校は部活動が盛んである」[94.2%]を94.5%以上にする <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> 全てのクラブが、年間活動計画の作成や「ノークラブデー」のHP掲載と完全実施をおこなう 「全校一斉定時退庁日」における教職員の順守率[66.5%]を67%以上にする 	<p>(1)</p> <p>アとイ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断における「フェス体・フェス文等の行事は楽しい」は96.1%でほぼ変わらずであった。(○) 生徒向け学校教育自己診断における「生徒会活動は活発である」は84.4%であった。今後さらに活躍の場を作っていくことが必要である。(△) <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 新入生の部活動加入率は77.5%であった。部活動のさらなる活性化を検討する。(◎) 生徒向け学校教育自己診断における「学校は部活動が盛んである」は94.0%であり、高水準を維持している。(○) <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間活動計画は作成した。ノークラブデーのHP掲載もしている。しかし、完全実施まではしていない。来年度は順守していく(△) 「全校一斉定時退庁日」における教職員の順守率71.8%であった。曜日変更後は74.4%に上がっている。(◎)
<p>3 「地域連携」を核にして「地域とともにある学校」を進めるとともに、支援学校との交流、海外の学校や外部機関との連携を推進する</p>	<p>(1) 支援学校との連携を通じたインクルーシブ教育システムの理解と実践</p> <p>ア 藤井寺支援学校との交流活動の拡充、インクルーシブ教育システムの構築の理解と実践</p> <p>(2) 「地域連携」を核にした生徒の主体的交流活動の充実による「地域とともにある進学したい学校No. 1」の確立</p> <p>ア 地域活動の拡充、地域と密着した「地域とともにある学校」の継続</p>	<p>(1)</p> <p>ア 藤井寺支援学校との年間を通じた交流活動を充実させるとともに、オンラインを含めたインクルーシブ教育システムの構築について理解を深め、実践に生かすことによって年間を通じた「人権教育」につなげる 活動の内容についての広報にも努める</p> <p>(2)</p> <p>ア 地域活動(校外清掃・地域の催しへの参加、地元小・中学校との連携活動)の拡充を図り、藤井寺市立北小学校への「放課後学習支援」と「授業研究」の連携を通じて、児童・生徒、教員間の交流を促進する</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断における「命の大切さやルール、人権について学ぶ機会がある」[94.4%]を維持する 保護者向け学校教育自己診断における「学校は子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている」[92.8%]を93.0%以上にする <p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断における「PTAや地域、近隣の学校(支援学校や小学校)との交流は活発である」[93.2%]を93.5%以上にする 保護者向け学校教育自己診断における「地域や近隣の学校(支援学校や小学校)との交流をしている」[94.2%]を95.0%以上にする 	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断における「命の大切さやルール、人権について学ぶ機会がある」は90.9%であった。年間を通じて講演会等を実施しており、高水準ではあるが、さらに学びを深めていけるように検討したい。(△) 保護者向け学校教育自己診断における「学校は子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている」は94.1%で保護者の理解は得られている。(○) <p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断における「PTAや地域、近隣の学校(支援学校や小学校)との交流は活発である」91.6%で積極的に参加する生徒は多いがさらに参加を促したい。(○) 保護者向け学校教育自己診断における「地域や近隣の学校(支援学校や小学校)との交流をしている」92.3%と理解されている。(○)

府立藤井寺高等学校

	<p>イ 海外研修の継続・充実</p> <p>(3) 「藤高(ふじたか)」の良さを 知り、実感できる広報活動 の充実</p> <p>ア 学校ホームページ、藤高 メルマガのさらなる充実</p> <p>イ 生徒が主体の「体験入 学」、「学校説明会」のさらなる 充実</p>	<p>イ オーストラリアへの海外研修の継続と オンラインによる交流システムの内容を 充実させることによって、現地高校から 日本への短期留学や本校での学校交流、 ホームステイ受け入れなどのサポートに 取り組む</p> <p>(3)</p> <p>ア ホームページの充実を図り、「求められる 情報」を発信するための更新を継続する とともに、学校ホームページやメールサ ービスの利用方法、メリットについても 発信力を強め、より効果的な活用を模索 する。また、広く地域へも教育に関わる 情報について提供していく PTA 活動においても引き続き改革をすす め、多くの会員が参加し、満足できる活 動形態を構築するため実行委員会を中心 に検討していく</p> <p>イ 「体験入学」、「学校説明会」において、 在校生が主体的に活躍することによっ て「藤高(ふじたか)」の良さをわかりやす く伝える</p>	<p>イ 海外研修参加者によるアンケート において肯定的評価 100%を 維持する。</p> <p>(3)</p> <p>ア イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者向け学校教育自己診断 における「学校は教育情報につ いて提供の努力をしている」 [89.4%]を、89.7%以上に する ・保護者向け学校教育自己診断 における「学校のホームペー ジやメールサービスを利用した ことがある」[84.8%]を85.0% 以上に する ・教員向け学校教育自己診断に おける「教育活動について必要 な情報について、生徒・保護者 や地域への周知に努めている」 [85.8%]を86.5%以上に する 	<p>イ・肯定的評価は 100%であ った。引き続き生徒のニーズに合 った研修を続けていきたい (○)</p> <p>(3)</p> <p>ア イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者向け学校教育自己診断 における「学校は教育情報につ いて提供の努力をしている」は 86.8%であった。今後も様々な情 報を積極的に発信していく。(○) ・保護者向け学校教育自己診断 における「学校のホームページ やメールサービスを利用したこ とがある」は88.1%で保護者の SNSへの理解も深まっている。(○) ・教員向け学校教育自己診断に おける「教育活動について必要 な情報について、生徒・保護者 や地域への周知に努めている」 94.9%であった。(◎)
<p>4 生徒が安全・安心な環境 の中で学校生活を送るとともに、 生徒、教職員の健康管理を推進する体制を充実させる</p>	<p>(1) 生徒の規範意識の向上と保 護者、関係機関との連携に よる教育相談体制の充実</p> <p>ア 生徒一人ひとりに対する 支援の充実</p> <p>イ 自転車マナーの向上と交 通安全指導の徹底</p> <p>(2) 「入学してよかったと言え る学校」の継続</p> <p>ア 「藤高」の将来に向けた特 色ある取組みの検討</p> <p>イ 個人情報保護するための 取り組みを検討</p>	<p>(1)</p> <p>ア 本校の教育目標である「互いに違いを認 め合い、ともに学びともに生きる」こ とを育むために、「教育相談」体制の充実を 図るとともに、各学年と部活動の連携や 保護者との連携、情報提供に努め、生徒 支援体制を強化する。また生徒指導方針、 内容に対する理解促進を図るとともに、 価値観や生活スタイルの変化にも対応し ていけるよう検討を続けていく</p> <p>イ 生徒の 98%が自転車通学をしているた め、地域や警察と連携した交通安全指導 を図るとともに、雨天時の傘さし運転に 対する注意喚起を徹底する</p> <p>(2)</p> <p>ア 「入学してよかったと言える学校」であ り続けるために、「運営委員会」「総合探 究推進委員会」「オンラインライン学習委 員会」を中心に学習、学校行事、部活動な ど学校生活全般についての検討を継続す る</p> <p>イ デジタル機器の導入や情報のデジタル化 にともなう個人情報漏洩の危険性に対 して、情報保護のための具体的な対策を立 案するとともにその実施を徹底する</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断に おける「担任の先生以外にも相 談することができる先生がい る」[78.2%]を78.5%以上に する ・保護者向け学校教育自己診断 における「子どもが悩みを相談 できる体制ができてい る」[84.0%]を84.3%以上に する <p>イ 生徒向け学校教育自己診断にお ける「学校生活についての先生 の指導は納得できる」[77.4%]を 78%以上に する</p> <p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断に おける「学校に行くのは楽しい」 [85.2%]を86.0%以上に する ・生徒向け学校教育自己診断に おける「学校は特色ある取組 みを行っている」[89.4%]を89.6% 以上に する <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断に おける「学校において個人情報 は守られている」[95.1%]を 95.5%以上に する 	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断に おける「担任の先生以外にも相 談することができる先生がい る」73.4%であった。学校の相談体制 をさらに充実させる必要がある。 (△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者向け学校教育自己診断 における「子どもが悩みを相談 できる体制ができてい る」は77.8%であった。相談しやすい雰 囲気づくりを進める。(△) <p>イ 生徒向け学校教育自己診断に おける「学校生活についての先 生の指導は納得できる」は 77.0%でほぼ変わらない。今後も 寄り添う指導を心がけ、絶え間なく 指導の在り方を検討してい く。(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断に おける「学校に行くのは楽しい」 は87.2%であった。引き続き魅 力のある学校を推進していく。 (◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断に おける「学校は特色ある取組 みを行っている」85.2%で、さら に本校の魅力を高めていきたい。(△) <p>イ・生徒向け学校教育自己診断に おける「学校において個人情報 は守られている」94.6%で昨年とほ ぼ変わらない水準である。個人情 報は常に意識をしながら取り扱 いに細心の注意を払っていく。 (○)</p>

府立藤井寺高等学校

<p>(3) 大規模災害の発生に対応できる防災体制の強化および防災教育の充実</p> <p>ア 大規模災害の発生に対応できる防災体制の強化</p>	<p>(3)</p> <p>ア 大規模災害に備え、藤井寺市危機管理室と連携するとともに、必要物資のさらなる調達を進めていく</p>	<p>(3)</p> <p>ア 本校、藤井寺市、地域3者合同会議を年1回開催する</p>	<p>(3)</p> <p>ア・藤井寺市とは連携したが、地域を含む3者合同会議は開催できなかった。(△) 今後、地域を含めて防災体制を整えていきたい。</p>
<p>(4) 生徒・教職員の健康管理体制の充実</p>	<p>(4) 学校保健委員会、安全衛生委員会の活性化によって生徒の健康を守るとともに、「部活動方針」の遵守等により時間外勤を削減し、教職員の働き方改革を進める</p>	<p>(4) ・一人当たりの平均時間外在校時間を2%減少させる</p>	<p>(4) ・一人当たりの平均時間外在校時間は5.8%の減少であった。 (◎)</p>